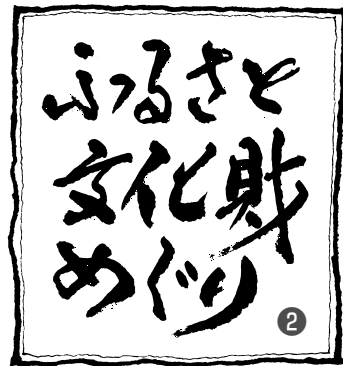




上空から見た快天山古墳(白線が推定墳丘ライン)

日本の歴史区分で四く七世紀は古墳時代と呼ばれている。古墳時代は、地域の有力者の埋葬に大型の墓造りが活発に行われていた時代であり、前・中・後期と大きく三時期に分類される。特に古墳時代前期における古墳造りからは、地域の特徴を色濃く

～刻まれた歴史の記憶～



日本最古の石棺をもつ 四国最大の前方後円墳

見ることができるとは、それ以降はほぼ標準化されていく。我々の地域で現在確認されている古墳時代前期に築かれた古墳は、丸亀平野の東部および南部の丘陵上に集中しており、その大半が前方後円墳である。

これらは、讃岐特有の築造方法によって築かれたものが多く、その特徴として顕著に見られるのが、丘陵上に立地し地形に沿った配列であること、積石により構築され

### 国指定 史跡 快天山古墳

《平成十六年九月三十日指定》

ていること、主体部は複数で東西主軸となつていことなどである。このような前方後円墳が築かれている中、他に類を見ない異色な古墳が唯一築かれている。それは、綾歌町南東部の小丘陵上に築かれた快天山古墳である。快天山古墳で特に注目する点はその規模である。一般的な前方後円墳の全長が四〇メートル前後であるのに対し、快天山古墳は九八・八メートルと圧倒的に大きく、前期古墳として



第1号石棺

墳丘上に露出する刳抜式割竹形(わりたけがた)石棺

は、四国最大の規模を誇っている。これは、水準の高い測量や土木技術を取り

入れることにより造り得たものである。古墳の表面は、明石の五色塚古墳に見られるような段築構造で斜面部には葺石が葺かれ、テラス部には円筒埴輪が並べられている。埋葬施設は後円部に三か所あり、棺には国内最古の、石を刳り抜いて作った石棺が採用されている。棺の内外からは、銅鏡や鉄製品など多くの副葬品が見つかっている。刳抜式石棺は、後に他の地域の首長墓にも採用されるようになる。これらのことから、快天山古墳の被葬者は中央にもつながる権力者で、東四国もしくは四国全体を治めていたことが推測される。

(文責 文化課・近藤武司)



**電話でJRの指定席が予約できます。**

5489 6/1 サービス開始

0088-24-5489

全国のJRの指定席券が電話でご購入いただけるサービスです。

- JR四国で取り扱っているトクトクきっぷは対象外です。
- JR西日本で取り扱っているトクトクきっぷはJR西日本エリアのみ受取り可能です。

※詳しくは駅設置のチラシまたはインターネットでご確認ください。 [JR四国] [検索]

**新築移転 開院**

**三浦内科**

**みちこ小児科クリニック**

内科・消化器内科  
循環器内科・小児科  
アレルギー科  
リハビリテーション科

丸亀市土器町東7丁目886  
(県道33号線沿い・高松信用金庫前)

☎0877-22-7311

広告掲載について詳しくは、市秘書広報課(☎08800)または市ホームページでご確認ください。

この広報紙は、四国新聞販売(株)に委託し、市内の全世帯(※一部地域を除く)に配布しています。配布のお問い合わせは、同社(☎0120-494459)までご連絡ください。 ※城乾コミュニティ地区は同センター(☎0012)へお問い合わせください。